情勢報告（平成２８年　１月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

集落営農塾（組織化編２）

１２月２１日、津野町役場西庁舎において、集落営農塾組織化編（第２回）を開催し、集落営農を志向する集落の代表者や中山間直接支払いの協定代表者など１３名が参加しました。

農業改良普及課は、組織体制や活動方法について具体例を紹介し、地域にあった形を作ることの重要性を周知しました。

参加者からは、新たな仕組みづくりについて積極的な支援を期待する発言がありました。

今後は、組織化を志向している集落に対して個別に現地指導を行なっていきます。

チーム光合成やってます！

１月４日、農業改良普及課会議室で新年初会を開催しました。

現在、農業改良普及課では環境制御技術導入による増収技術の普及に向け、ミョウガ、キュウリ、シシトウ、ニラ、インゲンなどでハウス内に設置した環境測定機器により温度、湿度、炭酸ガス濃度など多くのデータを収拾し、生育データと併せて増収に向けたハウス内環境の改善を検討しています。しかし、環境データの取りまとめ方法や生育調査方法などが品目により様々であることが問題となりました。そこで、「チーム光合成」を合言葉に担当品目を超えた情報共有を週１回行うようにしました。

今後も効率的かつ効果的な普及に向け活動体制の更なる強化を図るとともに、担当者個々のレベルアップにもつなげていきます。

クジャクアスターでＩＰＭ技術に取り組んでいます

１月１２日、ＪＡ土佐くろしおクジャクアスター研究会の現地検討会が開催され、５名の参加がありました。

近年、ハダニやコナジラミが難防除害虫となっており、防虫ネットの展張や天敵を利用する実証試験を行っています。

農業改良普及課からは、実証試験の経過報告やコナジラミ類対策、ハダニ感受性検定結果（土佐市・ソリダスター）などの情報を提供しました。

参加者からは天敵に期待する声が聞かれました。

今後もＩＰＭ技術の確立に向け、試験や調査を実施していきます。

ＪＡ営農指導員と試験場職員の交流

１月１５日、ＪＡ土佐くろしお営農指導課職員による農業技術センターの視察研修を実施しました。

農業改良普及課は、指導者層の技術水準を高く維持していくためには最新の試験情報を共有する必要があると考え、毎年、ＪＡ営農指導員と試験場職員との交流を支援しています。今年は、営農指導課６名、農業改良普及課５名が参加し、パプリカの育種、ミョウガの養液栽培、キュウリの炭酸ガス施用等について視察し、情報交換を行いました。

参加者からは、品目毎に定期的な情報交換を希望する声も聞かれました。

サヤインゲン部会第２回現地検討会	
	１月２０日、ＪＡ土佐くろしおサヤインゲン部会が上ノ加江地区と須崎地区で現地検討会を開催しました。 農業改良普及課は、今年の気象の変化を提示し、厳寒期の温度管理及び少量多かん水について指導しました。また、天敵昆虫による害虫防除及び炭酸ガス施用の実証ほの途中結果などの情報を提供しました。 参加者から、実証結果への質問が増えてきており、関心が徐々に高まっています。 今後も現地検討会や勉強会で実証結果を随時情報提供し、早期の技術確立を目指します。